

下取りとEPR・3Rの関係を考える

京都府立大学大学院 生命環境科学研究科
 山川肇

はじめに

- 下取り・・・使用済み製品を販売企業が引き取る
 EPRの製品引取と同じ？
 ……EPRで期待されているような3R効果があるの？
- 下取り・・・販売促進、買替促進のため
 長期使用に反する？

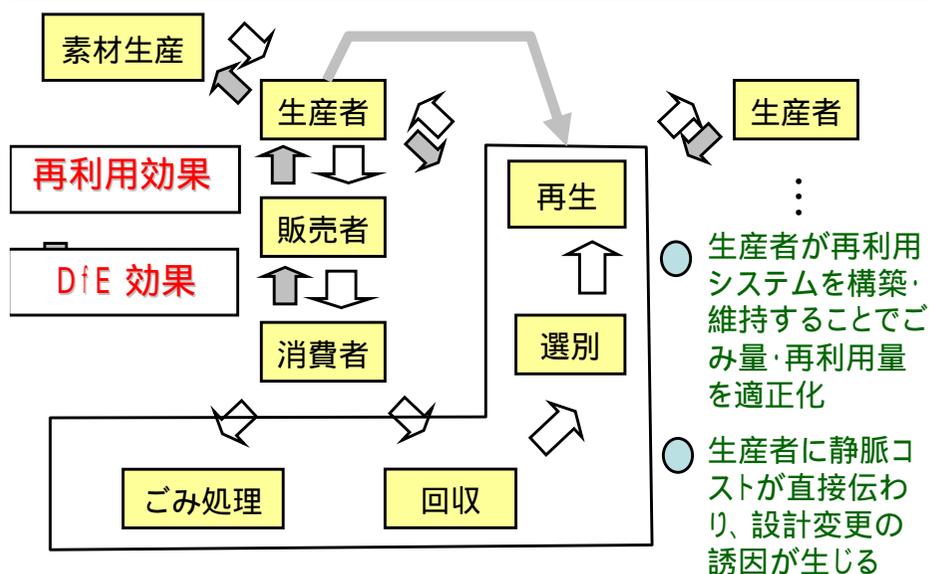


こうした疑問について、理論的に整理

2. EPRに期待される3R効果

4

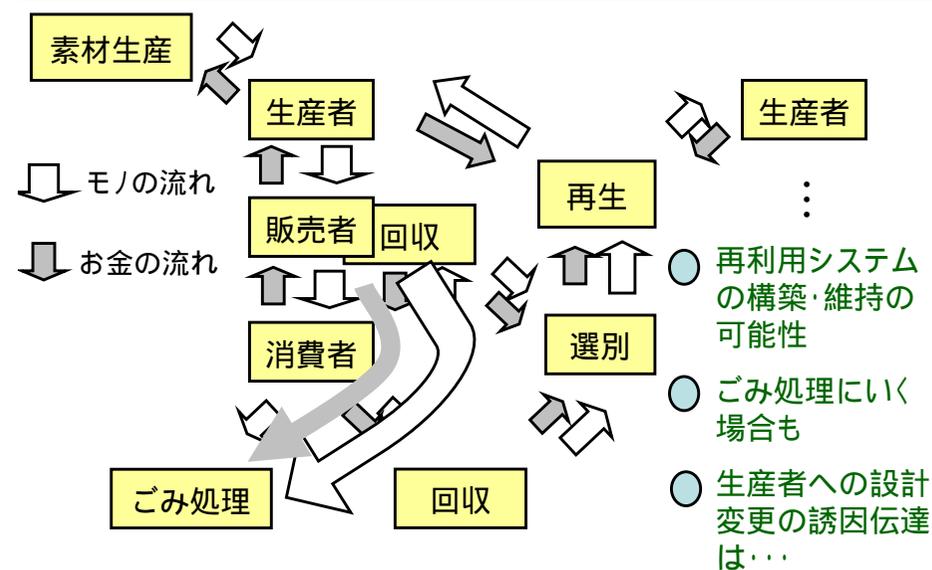
EPRを適用すると・・・



3. 下取り・中古引取の効果

5

ごみ無料・逆有償に、定額下取りが加わると・・・



下取りによりDfEが促進されるためには・・・

販売店の下取り費用が、製品特性と関連付けられて、生産者に認識されること

◆ 製販統合、販促協力・上流への転嫁、など

DfEによって各メーカーが負担する費用を低減できる場合

下取り回収とDfEがトータルとして環境負荷を下げる上で有効である

+ 負担になっても辞めない！

下取りの販売促進効果をどう考えるか・・・

割引効果 通常不值引きと同じ

- 商品の参照価格を下げない可能性あり
- 経営面でメリットがある可能性も

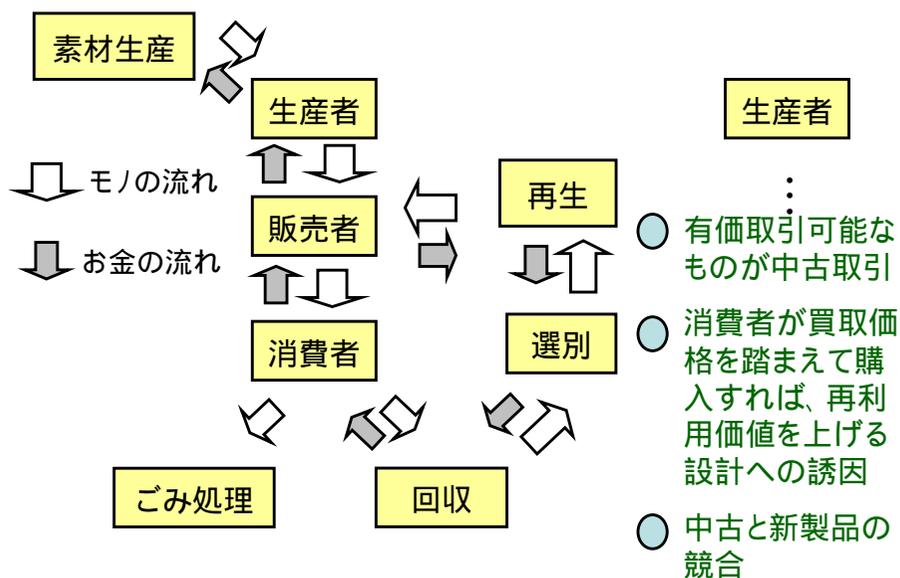
スペース効果 下取り特有の効果

- 通常値引以上に買替促進効果を持つ可能性あり
- ただし、資源利用効率を考えたとき、使わずに眠らせておくのと、リユース・リサイクルされるのと、どちらが望ましいか、検討が必要。

ごほうび効果・免罪符効果

- 実際の環境負荷のチェックと適切な情報提供で誤解を予防することが長期的に重要

ごみ無料・逆有償に、査定買取が加わると



まとめ

- 下取り品の再利用を行う定額下取りは、消費者にとって利用しやすい資源回収ルート構築につながり、再利用促進に寄与する可能性がある
- EPRに期待されるDfEを、定額下取りに期待するのは難しい
- 定額下取りの販売促進効果は、通常不值引よりも買替促進効果を持つ可能性がある。ただし、その3Rからの評価は今後の課題
- 下取りは3Rにつながるイメージがあるため、誤解を生まないよう、引取後の行方などの情報公開も重要
- 査定買取/中古品取引は、市場が完全であれば、再利用・DfE効果を持ちえるが、DfE効果はあまり現実的ではない